

飛騨市文化交流センター建設に至る四半世紀の歴史

平成18年3月に飛騨市文化交流センターが完成し、6月3日に開館を迎えました。施設開館までを振り返るとそこには紆余曲折の歴史がありました。施設が現実のものとなった歴史をここに振り返ってみたいと思います。

昭和55年9月17日に、まちの音楽好きのグループで結成されていた飛騨古川音楽文化協会が、体育館に大きな独自製作の反響板を設置し、一見コンサートホールのような会場作りまで行って実施した東京フィルハーモニー交響楽団演奏会（当時神岡町出身の東フィル団員の細洞寛氏の情報提供がきっかけに演奏会開催が決意された。）が、町民の1割に及ぶ1600人を集める演奏会となり、主催者の予想を覆し、まちに思わぬ大きな反響を与えました。このコンサートによって生の音楽演奏に触れられる機会のすばらしさが見直され、このコンサートの収益金が寄附されたことにより、文化ホールの建設基金が創設されました。こうしてホール建設を望む声が高まり、その実現に向け官民一体となった取り組みが始まることとなったのです。



東京フィルハーモニー交響楽団演奏会

この東京フィル演奏会での成功のもとに、この演奏会を実施した飛騨古川音楽文化協議会も会員や協力者が増え



様々なコンサートが催された

ていき、日本を代表するオーケストラからプラスアンサンブル、フォルクローレ、ヨーデル、プラハやハンガリーの合唱団など様々なジャンルの音楽コンサートを体育館を会場に、次々に展開していきようになりました。そうした中、昭和61年に行われた新日本フィルハーモニー交響楽団の演奏会で指揮者として来町された小泉和裕氏は、山間のこのまちを

気に入られ、古川町寺地地区に古民家の別宅を構えられることとなり、世界をまたにける気鋭の指揮者と飛騨古川の間につながりが生まれることとなりました。この小泉和裕氏とのつながりにより、様々な文化人、音楽家、芸術家が町に紹介されるようになり、小泉邸の屋根裏では住民を招いて音楽演奏家仲間による屋根裏コンサートを毎年開催されたり、地元住民に対し音楽指導をされるなど、小泉氏と音楽を通じた地域とのつながりがより深いものになっていきました。そうした中、昭和63年には、小泉氏のご紹介により当時の京都大学教授で国際政治学者であった矢野暢氏による音楽のまちづくりに向けたシンポジウムが開催されました。このシンポジウムにおいて、地方からの音楽文化の発信を目指し、飛騨古川音楽大賞の創設が提言され、日本の音楽界をリードする音楽家や文化人を顕彰する制度が、全国でも初めて、一地方自治体により創設され、日本を代表する音楽家や文化人が年々飛騨古川へ来訪するようになりました。また以前より



飛騨古川音楽大賞授与式

継続して行われていた飛騨古川国際音楽祭も体育館等を会場としながらも様々なジャンルでさらに充実したものとして展開され、また小泉氏による県内アマチュアオーケストラの合宿指導などの新たな展開も生まれていき、「飛騨古川音楽の森推進事業」として国、県からもその独自性のある施策に注目が集まるようになりまし

た。特に文化庁からは重要な地域文化振興施策の実施拠点として認められ、多くの補助金等財政支援を得られることとなりました。こうした中、平成2年に、第1回飛騨古川音楽大賞を受賞された世界的作曲家武満徹氏に旧古川町からの作曲委嘱をお受け頂き、「オーケストラのためのスピリットガーデン」が作曲され（このホールの名称にさせていただきます。）、平成6年7月に東京サントリーホールで、古川町の主催により、東京都交響楽団の演奏で初演されるという、町にとってかけがえのない事業が展開されました。この演奏会は全国の音楽シーンの注目を集め、FM放送でも全国生放送されるなど大きな反響を生みました。また、曲のCD化をはじめ、この後ヨーロッパ諸国でも演奏されるたび、飛騨古川の名が世界で紹介されることとなりました。



武満徹作曲「スピリットガーデン」世界初演

このように、まさに地方からの音楽文化発信と創造が形になっていく中で、つながりのできた関係各方面の諸先生方より、こうして築きあげてきたソフト地盤、また国や県当局との好意的なつながりをもとに、御指導、御助言を頂戴しながら、ホールの実現に向けて更に議論を重ねていきました。

こうした過程の中、一方では、子ども合唱団、町民の吹奏楽団、太鼓のグループ、コーラスグループ、ステージサポートグループ、劇団誘致や演奏会誘致グループ等々様々なジャンルで市民の文化団体も次々に発足していき、町民音楽祭の開催も始まり、まちの文化活動も底辺からより活発になってきました。



活発化する町民音楽活動

このような市民文化活動の活性化に伴い、文化ホールにかかる期待もより大きなものとなっていき、外部の人脈の充実、国、県当局の支援体制など機軸の熟してきたことをもとに、平成7年頃よりホール建設の計画が具体性を帯びて進める段階に入りましたが、その建設の是非については、大型事業でもあり官民ともにさらに慎重に議論を重ねる時期が続きました。

その中で、平成10年には飛騨古川国際音楽祭として地道に続けてきた事業も遂に20周年を迎え、同年9月に開催した記念の式典においては、高円



飛騨古川国際音楽祭20周年記念式典

宮殿下同妃殿下にご来臨頂くという栄を賜り、励ましのお言葉を頂戴し、宮中の御神楽の演奏を町民にご披露頂くなど、ホール実現に大きな励みと後押しをお受けました。

こうした経緯を経て、国の「まちづくり総合支援事業」として進めていた古川市街地の総合的なまちづく

りを進める計画策定の中で、既存の駅北側の公共施設群との総合力を見据えた形で、旧森林管理事務所跡地となっていた現在地での生涯学習機能を備えたホール施設の整備計画が提案され、平成14年7月、町民各階層の方々と、具体的な基本構想の策定作業が始まることとなり、いよいよ施設実現が現実的なものとして見えてくることとなりました。この策定された基本計画を受けて、平成15年2月には基本計画策定及び基本設計に着手することになり、様々な意見を集約したものを形作り、順次実施設計へと進んでいきました。この間の平成16年2月には旧古川町は町村合併により飛騨市となり、合併して大きくなった飛騨市のコンベンション拠点としても大切な位置づけが付加され、その半年後の10月8日、遂に工事着工の運びとなったのです。まさに四半世紀という長き歩みを経て、ここにようやく待望の施設として完成をみたのが、この飛騨市文化交流センターであります。



基本計画の策定
(平成14年7月～平成15年3月)



基本設計 (平成15年12月)

このように、この施設に対して内外の多くの人たちが熱い思いをもってこれまで議論を重ねながら、様々な事業を展開してきた成果として、施設が完成に至ったといえます。こうしたことから、これまで様々な事業展開の中で大きな成果をおさめてきた官民の連携というスタイルを大切に、飛騨市の直営方式をとりながらも、この施設に息をかける市民有志により設立されたNPO法人ひだ文化村に、施設の運営業務を部分的に委託し、また様々な実績を重ねてきた各市民グループのノウハウを施設運営に活かしながら、官民の連携により施設の運営をスタートさせました。そして、NPO法人ひだ文化村をはじめ各市民グループも待ちかねたかのようにオープン年度各種事業を展開され、市民パワー全開により施設も活気よく運営展開されました。その中、折しも全国で指定管理者制度が施行され、公の施設の運営をNPOなどを含む民間事業者へ委ねる流れの中、この市民パワーをより発揮し、施設の活性化が図られることを企図し、開館2年目の平成19年度よりNPO法人ひだ文化村を施設の指定管理者として指定することが決まり、新たな歴史が刻まれることとなりました。

- 昭和35年 古川町文化協会発足 町民の芸能発表の大会として
第1回芸能公演始まる。(以降毎年開催)
- 昭和41年 古川小学校で「ふしづくり教育」が始まる。※写真2
- 昭和42年5月 町立公民館完成(千代の松原公民館)
- 昭和43年 飛騨サウンドキャッスルが8名の団員より発足。※写真3
昭和46年に古川劇場で第1回演奏会開催
第1回民謡祭りが開催される。
(以降毎年開催。開催の都度毎年地域づくりに寄附を続ける。)
- 昭和53年5月5日 町民有志による「飛騨古川音楽文化協議会」が設立(のち協会に変更)
大阪音楽大学 北山隆教授を迎え シンポジウム「古川の音楽を考える」開催
※レコードコンサートなど地道な音楽文化振興活動を開始
- 昭和55年9月17日 東京フィルハーモニー交響楽団演奏会(於:古川小学校体育館)※写真4
指揮 大町陽一郎 1,800人の観衆を集め大きな反響をよぶ
- 昭和55年9月25日 「文化会館建設資金」として、飛騨古川音楽文化協会が古川町へ寄附
- 昭和56年4月1日 文化会館建設基金条例制定(古川町)
- 昭和56年8月11日 東京フィルハーモニープラスアンサンブル(於:古川町民会館)
※神岡町出身東京フィルトロンボーン奏者細洞 寛氏を中心としたメンバー
- 昭和56年10月4日 エルネストカプールとコンファート公演 ポリビア民族音楽(フォルクローレ)
(於:古川町民会館)※写真5
※駐日ポリビア全権特命大使が来町され、感謝状を拝受
- 昭和57年3月25日 岐阜県芸術文化活動特別奨励賞受賞(飛騨古川国際音楽祭)
※受賞金を「文化会館建設基金」へ寄附
- 昭和57年6月24日 大阪フィルハーモニー交響楽団演奏会※写真6
(於:古川町農業者トレーニングセンター)
指揮 朝比奈 隆
- 昭和58年8月30日 NHK交響楽団演奏会(於:古川町農業者トレーニングセンター)
指揮 秋山和麿 ヴァイオリン 堀米ゆず子
- 昭和59年5月5日 ひだふるかわ音楽の森合唱団発足※写真7
- 昭和59年7月14日 ハンガリー少年少女合唱団演奏会
(於:古川町農業者トレーニングセンター)
- 昭和60年6月 第10回民謡祭り(古川小学校体育館)
大塚文雄他NHK民謡テレビレギュラー豪華メンバーによる民謡ショーを併催
- 昭和60年7月28日 長崎少年合唱団飛騨古川公演(於:古川町農業者トレーニングセンター)
- 昭和60年11月16日 新日本フィルハーモニー交響楽団演奏会
(於:古川町農業者トレーニングセンター)
指揮 小泉和裕 ヴァイオリン 前橋汀子
- 昭和61年5月 指揮者小泉和裕氏古川町寺地に居を構える。
※平成元年12月3日には小泉氏の親交ある音楽家達を小泉邸へ招き、
屋根裏で地域住民を集めてコンサートを開催。
以降毎年のように続けられている。
- 昭和61年9月20日 N響弦楽四重奏団演奏会(於:古川町総合会館)
徳永二男、三浦章宏(ヴァイオリン)、菅沼準二(ヴィオラ)、
徳永兼一郎(チェロ)
- 昭和61年10月8日 スイス・ヨーデルフェスト演奏会
(於:古川町トレーニングセンター)
- 昭和61年11月9日 第1回古川町民音楽祭開催(於:古川小学校体育館)※写真8
- 昭和62年8月 日 子供のための合唱組曲の作曲を岩本渡教授(昭和音楽大学)に委嘱
「古川って好き」が作曲された。
- 昭和62年9月18日 東京都交響楽団演奏会(於:古川町トレーニングセンター)
指揮 ジャン・フルネ ヴァイオリン 島根 恵



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8

- 昭和63年7月11日 和ロウソクコンサート フルトとハーブの夕べ (於:三嶋ロウソク店) ※写真9
フルート ローラ・ラーソン ハープ ガースティン・アルヴィン
- 昭和63年8月14日 プラハ少年少女合唱団演奏会 (於:古川町トレーニングセンター)
- 昭和63年10月29～30日 飛騨古川音楽文化協会創立10周年記念式典 (於:古川町総合会館)
記念講演 シンク'88「飛騨古川の明日を考える」
京都大学教授 矢野暢教授、指揮者 小泉和裕氏
- 平成元年10月18日 第1回飛騨古川音楽大賞授与式 (於:古川町総合会館)
記念シンポジウム 武満 徹、朝比奈 隆、諸井 誠、矢野 暢 ※写真10
記念講演 地方と音楽 小泉和裕
- 平成元年10月19日 音楽祭記念弦楽四重奏団演奏会 (古川町郷土民芸館)
西田 博、高田あずみ(ヴァイオリン)、白尾兼津子(ヴィオラ)、
ペアンテ・ホーマン(チェロ)
- 平成元年10月24日 名古屋フィルハーモニー交響楽団演奏会 (於:古川町トレーニングセンター)
指揮 小泉和裕 チェロ 堤 剛
- 平成元年11月3日 唐津焼の陶芸家 中里 隆氏の作陶展を開催(指揮者小泉和裕氏とのご縁により実施)
※収益金5,595,435円を音楽祭特別事業に寄附
- 平成2年4月1日 中里隆音楽文化振興事業基金創設
- 平成2年7月7～8日 岐阜県交響楽団古川町宿泊研修開催 ※写真11
以降平成13年まで開催。指揮者小泉和裕氏を中心に国内プロオーケストラ奏者が指導。
※岐阜県交響楽団成果発表演奏会 (於:古川小学校体育館)
- 平成2年7月 飛騨古川音楽の森事業が「文化庁地域文化振興特別推進事業」に
認定される(平成2～4年度)
- 平成2年8月16日 夏のさわやかコンサート(於:古川小学校体育館)
金城学院大学ハンドベルクワイヤー、倉敷少年少女合唱団、
ひだふるかわ音楽の森合唱団
- 平成2年9月18日 名古屋フィルハーモニー交響楽団演奏会 (於:古川小学校体育館) ※写真12
指揮 小泉和裕 P.野島 稔
- 平成2年10月14日 第2回飛騨古川音楽大賞授与式
- 平成2年10月22日 音楽祭記念「室内楽の夕べ」
ピアノ 清水和音 ヴァイオリン 豊嶋泰嗣
- 平成2年12月 指揮者 小泉和裕氏が音楽関係の蔵書約600冊を図書館に寄贈
- 平成3年3月1日 諸井誠作曲「竹林奇譚抄・斐陀以呂波」世界初演
(於:古川町郷土民芸会館) ※写真9
尺八・鳴子 三橋貴風 演出 亀ヶ谷環
- 平成3年3月2日 邦楽コンサート「邦楽へのいざない」(於:古川町総合会館) ※写真13
尺八 三橋貴風、二十絃箏 吉村七重、三絃 富山清隆、箏 富成清女
- 平成3年3月17日 桐島洋子文化講演会 (於:古川町総合会館)
- 平成3年6月8日 「森林の音霊」土取利行 縄文の音コンサート ※写真14
(於:気多若宮神社境内)
- 平成3年7月1日 園田高弘ピアノリサイタル (於:古川町郷土民芸館) ※写真15
- 平成3年8月25日 岐阜県少年少女合唱フェスティバル ※写真16
(於:古川町農業者トレーニングセンター)
- 平成3年9月7日 沢和樹弦楽四重奏団演奏会 (於:古川町総合会館)
- 平成3年9月30日 飛騨古川音楽の森構想委員会が市街地ホール建設計画を盛り込んだ
基本構想を策定
- 平成3年10月30日 京都市交響楽団演奏会 (於:古川町農業者トレーニングセンター)
指揮 井上道義 ヴァイオリン 海野義雄
- 平成3年11月26日 第24回東海テレビ文化賞受賞(飛騨古川国際音楽祭推進会議)
※賞金は文化会館建設基金へ繰入



写真9



写真10



写真11



写真12



写真13



写真14



写真15



写真16

- 平成4年2月3日 第3回飛騨古川音楽大賞授与式(於:古川町総合会館)
※音楽大賞記念シンポジウム
矢野楊 武満徹 園田高弘 海老沢敏 樋口隆一 笠羽映子
- 平成4年5月10日 プレ・コンサート・トーク「作曲家・自作を語る」(於:古川町総合会館)
武満 徹、諸井 誠 司会 小石忠男(音楽評論家)
サントリー音楽財団コンサート(於:古川町総合会館)
「武満徹十諸井誠 in HIDAFURUKAWA」
- 平成4年5月28日 ベルリン国立歌劇場室内オーケストラ演奏会
(於:古川町農業者トレーニングセンター)
指揮 ペーター・シュライヤー
- 平成4年8月16日 飛騨古川国際ジャズフェスティバル'92(於:起し太鼓の里)※写真17
アーネスティン・アンダーソン&トリオ、バスター・ウィリアムズクインテット
- 平成4年9月19日 京楽所「管絃・舞楽」雅楽演奏会 ※写真18
(於:古川町農業者トレーニングセンター)
宮内庁楽部楽師を中心とする楽団 音楽監督 多忠磨
※起し太鼓の里・語り部の里オープン記念事業
- 平成4年9月20日 宮中雅楽講習会開催(以降毎年開催)※写真19
指導:宮内庁楽部楽師
- 平成4年10月18日 4回飛騨古川音楽大賞授与式(於:古川町総合会館)
※音楽大賞受賞記念コンサート
ヴァイオリン 前橋汀子 ピアノ 園田高弘
- 平成5年6月6日 劇団風の子北海道飛騨古川公演「どんぐりと山猫」※写真20
(於:古川町農業者トレーニングセンター)
以降 やまねこ実行委員会により毎年劇団公演開催
- 平成5年7月27日 文化庁こども芸術劇場 東京混声合唱団演奏会
- 平成5年8月15日 ガムラン宮廷舞踊 グヌン・ジャティ歌舞団公演 ※写真21
(於:古川町農業者トレーニングセンター)
- 平成5年8月22日 文化講演会「朝廷と雅楽」(於:古川町総合会館)
宮内庁楽部長(人間国宝・日本芸術院会員) 多忠磨
- 平成5年10月3日 飛騨サウンドキャッスル25周年記念演奏会(於:古川町総合会館)
- 平成5年10月18日 第5回飛騨古川音楽大賞授与式
※音楽大賞記念講演
若杉弘・広田均(株式会社ジーベック)
※音楽大賞受賞記念コンサート
チェロ 上村 昇 横笛 芝祐 靖
- 平成5年10月21日 北村英治スーパークインテット 屋台蔵コンサート ※写真22
(於:飛騨古川まつり会館)
- 平成5年10月 ひだふるかわプラスシンフォニック'93 発足 ※写真23
※古川中学校吹奏楽部OBを中心に音楽好きな仲間が集って結成し、
各種行事での演奏活動を始める。
- 平成5年11月3日 ドイツ・パッサンリステン演奏会(於:古川町農業者トレーニングセンター)※写真24
指揮 ヘルムート・ヴァンシャーマン
※地方拠点都市文化推進事業 文化庁認定(平成5年~9年の5年間)
※木の国ふるさとづくりの会 まちづくり提言書発刊
- 平成5年12月18日 飛騨古川四神太鼓発足
町民有志により発足し、林英哲氏より指導を受ける。
以後各種イベント等で演奏披露。
- 平成6年4月23日 スペイン・サラマンカ市 トマス・ルイス・ヴィクトリア合唱団公演
- 平成6年7月14日 飛騨古川国際音楽祭・東京特別公演
飛騨古川国際音楽祭委嘱作品
武満徹作曲「オーケストラのためのスピリッド・ガーデン(精霊の庭)」世界初演
(於:東京サントリーホール) 東京都交響楽団 指揮 若杉 弘
- 平成6年10月18日 第6回飛騨古川音楽大賞授与式(於:古川町総合会館)
※音楽大賞受賞記念コンサート
お話 岩城宏之 弦楽四重奏演奏、ピアノ 小山実稚恵
※音楽によるまちおこし講演 諸井誠
- 平成6年10月9日 飛騨古川コンサートホール研究会開催(作曲家諸井誠氏を座長に開催)
- 平成6年 林 英哲氏「古川四神太鼓」作曲(古川町委嘱作品)
- 平成6年10月30日 飛騨古川四神太鼓の演奏により初演※写真25



写真17



写真18



写真19



写真20



写真21



写真22



写真23



写真24



写真25

- 平成7年3月 市街地音楽ホール基本計画書策定
- 平成7年6月25日 飛騨古川童謡まつり 眞理ヨシコ他 (於:古川町農業者トレーニングセンター)
- 平成7年7月5日 市街地音楽ホール建設推進研究委員会発足
- 平成7年7月14日 小山実穂恵ピアノリサイタル(於:古川町郷土民芸会館) ※写真26
- 平成7年8月13日 古今組コンサート「アメリカンドリームサマーライブ・インふるかわ」※写真27
(於:起し太鼓の里広場)
吉澤政和(河合町出身)、走辺洋美、高橋健夫、西川啓光
- 平成7年9月16日 お月見コンサート<雅楽> 伶楽舎(於:古川町総合会館)
芝 祐晴・宮田まゆみ・中村仁美・白杵美智代
- 平成7年10月18日 第7回飛騨古川音楽大賞授与式(於:古川町総合会館)
記念講演 湯浅 譲二 記念コンサート 寺田 悦子(ピアノ)
- 平成8年10月8日 東京交響楽団演奏会(於:古川町農業者トレーニングセンター)
指揮 大友直人 フルーツ 甲藤さち
- 平成8年10月18日 第8回飛騨古川音楽大賞授与式(於:古川町総合会館)
※大賞受賞記念コンサート
ソプラノ 東 敦子 ピアノ 園田 高広
- 平成9年6月20日 寺田悦子ピアノリサイタル(於:古川町郷土民芸会館)
- 平成9年7月12日 クライスフルートソロイストコンサート(於:アートインふる愛館)
フルート 志田浩子(古川町出身) 他
- 平成9年10月4日 東京ホームコーラス飛騨古川公演(於:古川小学校体育館)
- 平成9年10月18日 第9回飛騨古川音楽大賞授与式
※音楽大賞記念講演 音楽学者 徳丸吉彦
※大賞受賞記念コンサート チェンパロ 曾根麻矢子 ピアノ 宮谷理香
- 平成10年9月26日 飛騨古川国際音楽祭20周年、雅楽会東岡社100周年記念式典
※写真28、29、30
記念演奏会 宮中御神楽特別演奏会(宮内庁楽部)
※高円宮憲仁親王殿下、同久子妃殿下ご来町
- 平成11年 町民有志により古川ステージサポート発足
各種舞台催しの照明・音響制作などのサポートをする団体として
町民舞台活動をサポート
- 平成12年6月 第25回チャリティー民謡祭り(於:古川小学校)
金沢明子さんらを迎えた民謡ビッグショーを併催
- 平成12年8月3日 リスト音楽院マスターコンサート(於:古川町総合会館)
以降毎年開催。岐阜市のサラマンカホールとのジョイントコンサートとして開催。
- 平成12年2月9日 MOE弦楽四重奏団(古川町で生まれた弦楽四重奏団)(於:古川町総合会館)
影山 誠治、鈴木 理恵子(ヴァイオリン)、川本 嘉子(ヴィオラ)、田中 雅弘(チェロ)
- 平成12年8月19日 サマージャズフェスティバル in 飛騨古川(於:起し太鼓の里広場) ※写真31
高橋達也 & REUNION SPECIAL BIG BAND 特別出演 日野皓正
- 平成13年10月26日 御堂に流れるドナウの風〜オクーンアンサンブルザルツブルクコンサート(於:真宗寺)
※若い町民有志によるドナウの風コンサート実行委員会が結成発足。以降各種音楽事業開催。
- 平成15年3月 まちづくり総合支援事業まちづくり活動推進事業に伴うまちづくり検討委員会発足
※ホール建設に向け具体的な検討が始まる。
- 平成16年6月10～12、27日 平成16年6月10～12、27日 飛騨市誕生祝祭コンサート(於:神岡町公民館、総合会館、宮川・河合中学校、日光寺)
オンファイ・チャバ(チェロ)、和田さやか(ピアノ)、ティンティン(中国琵琶)、虹橋バンド
- 平成16年7月3日 熊本マリピアノリサイタル(於:河合支雪館)
- 平成16年9月1日 葦の風コンサート(箏篋リサイタル)(於:飛騨の山樵館中庭)
伶楽舎 中村仁美
- 平成16年11月9日 喜多郎コンサート(於:飛騨市古川トレーニングセンター) ※写真32
台風23号被災者応援みんなでガンパロウコンサートとして開催
- 平成17年1月16日 台風23号被災者応援チャリティーコンサート(古川町総合会館)
ティンティン(中国琵琶)、和田さやか(ピアノ)、三國連太郎
- 平成17年6月5日 第30回チャリティー民謡祭り開催(於:神岡中央公民館)
- 平成17年8月20日 メジャーオーケストラ首席奏者によるサマーコンサート・
プラスアンサンブル〜精霊の響き〜(於:船津座) ※写真33
飛騨市文化交流センタープレオープンコンサート 監修 指揮者 小泉和裕



写真 26



写真 27



写真 28



写真 29



写真 30



写真 31



写真 32



写真 33



写真 33

飛騨古川のまちづくりを大きく変えるきっかけとなった 東京フィルハーモニー交響楽団演奏会 昭和55年9月17日

まちにオーケストラがやってくる!

当時東京フィルのトロンボーン奏者であった神岡町出身の細洞寛氏より、北陸まで演奏旅行で東京フィルが来るので飛騨で演奏会ができないか?という声に、まちの音楽好きの有志7人が立ち上がり公演誘致を決意した。地方でオーケストラコンサートなど行われていなかった当時、集客の予想もつかず、多額の自己負担を覚悟しながら、半ば賭けのような状態で公演開催に向かった。まさに古川やんちゃともいえるこの前例のない行動により「わが町にオーケストラがやってくると」、このコンサートはたちまち町中に大きなニュースとして知れ渡り、チケットが即完売するなど予想外の大きな反響を呼んだ。超満員の体育館!会場の外にも、もれてくる音だけでも聴きたいとゴザを敷いて聴く人が大勢集まった。まさに「田舎町にオーケストラがやってきた」という当時としては衝撃的なコンサートであり、町に大きな反響と刺激を与えた。



コンサートの様子を大きく伝える新聞記事

体育館をぎっしり埋め尽くす聴衆、1,800人を集めた。まさに町民の1割を超える人が来場した。こうした手作り会場と大勢の聴衆は、演奏者にも大きな感動を与え、舞台と客席が一体となった、まさに生の感動であった。

文化施設等整備基金条例が制定される。昭和56年4月1日

このコンサートを機に、音楽の町づくり、また文化ホール建設を望む声が上がり、その収益金や演奏会で使用した機材や舞台用具などが、主催者より寄附された。

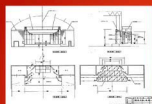
この寄附をもとに文化施設等整備基金が制定され、具体的に文化ホール誕生を目指した歩みが始まるとともに、その後の音楽のまちづくりに向けた様々な文化活動が花開いていくきっかけとなった。

このコンサートのまちの反響により議会から文化会館建設の提言があり、次年度この寄付金等をもとに建設基金としての積立を始めた旨町長が答弁している。翌年古川町文化施設等整備基金条例が制定された。

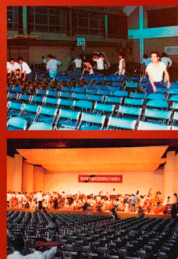


手作りのコンサートホール・・・体育館がホールに

体育館に手作りの反響板を設置し、体育館のステージをコンサートホールの舞台に仕立てた。様変わりした体育館にどのオーケストラも驚嘆し、演奏者にも来場者にも深い印象を与えた。コンサートホールのないまちで、住民の知恵と工夫により生の音楽を聴く機会を作り出していた。



反響板の設置工事と1000席を超える椅子並べの様子。ひとつのコンサート開催も実に多くの人の努力と熱意の結集した結果であった。わが町にもホールを!ホール建設を待ち望む住民の声が徐々に高まっていった。



独自に計画した反響板のイメージベースと図面。一つ一つのコンサートが会場づくりとともに手作りであった。

どこのコンサートホール?



飛騨古川音楽大賞

平成元年～平成9年

文化会館建設を現実のものとするためにも、それまで育ててきた音楽文化の土壌を基盤として、数多くの学者や音楽家、文化人との交流促進を図り、人脈とソフト面から文化的環境をより充実させ、地方から発信する音楽情報基地を目指し、日本の音楽界をリードしてきた音楽関係者を顕彰してきました。この大賞により普通では考えられない数多くの文化人が、この一地方へ足を運ばれ、多くの無形財産をこの地に残されました。

第1回受賞者



大賞 武満 徹 (作曲家) 中央左
特別功労賞 矢野 韓 (政治学者) 右
創設記念賞 朝比奈 隆 (指揮者) 中央右
創設記念賞 諸井 誠 (作曲家・音楽評論家) 左

第2回受賞者



大賞 園田 高弘 (ピアニスト) 左下3
特別功労賞 小泉 和裕 (指揮者) 右3
奨励賞 土取 利行 (打楽器奏者) 右2代理
特別賞 音楽の友社と同社社長浅香淳 左2

第3回受賞者



大賞 内田 光子 (ピアニスト) 代理
特別功労賞 海老澤 敏 (音楽学者) 中央左
新人賞 諏訪内晶子 (ヴァイオリニスト) 代理
特別賞 佐治 敬三 (サントリー音楽財団理事) 代理

第4回受賞者



大賞 前橋 汀子 (ヴァイオリニスト) 中央右
奨励賞 ニューアーツ弦楽団重奏団 右3名
奨励賞 原田 節 (オンド・マルトノ奏者) 中央左
特別賞 梶本 尚端 (梶本音楽事務所代表) 左2

第5回受賞者



大賞 若杉 弘 (指揮者) 中央右
特別功労賞 芝 祐晴 (横笛奏者) 右2
奨励賞 上村 昇 (チェロ奏者) 左2
特別賞 瀬川へく廣田 均 (感性性研究機構代表) 右

第6回受賞者



大賞 岩城宏之 (指揮者) と
オーケストラアンサンブル金沢 右3
奨励賞 小山実穂恵 (ピアニスト) 左3

第7回受賞者



大賞 湯浅 譲二 (作曲家)
奨励賞 寺田 悦子 (ピアニスト)

第8回受賞者



大賞 東 敦子 (ソプラノ歌手)
奨励賞 三橋 貴風 (尺八奏者)

第9回受賞者



特別功労賞 徳丸 吉彦 (音楽学者)
奨励賞 曾根 麻矢子 (チェンバリスト) 右
新人賞 宮谷 理香 (ピアニスト) 左

音楽大賞創設記念賞受賞者 諸井 誠氏 「竹林奇譚抄・斐太以呂波」作曲

飛騨古川音楽大賞創設記念賞の受賞を機とし、諸井誠氏が古川町の旅館で泊まりこみ、構想をあたためていた大作の作曲に着手された。曲は、起し太鼓、屋台行列、三寺まいり、匠などまちの祭事をはじめとした、まちのイメージも盛り込まれ、尺八と鳴子をういた曲として完成し、平成3年3月1日に三橋貴風氏により古川町で世界初演された。同年9月1日にはCBSソニーよりCDが発売され、このCDが平成3年の文化庁芸術作品賞を受賞した。諸井氏による懇親の力作が、地域の名を刻み、この地で誕生した。

諸井誠作曲発表レクチャーコンサート 平成3年3月1日(金)



神秘的な雰囲気の中、世界初演する三橋貴風氏
(於:古川町郷土民芸会館) 演出:亀ヶ谷 瑠



第一部の創作記念講演で作曲の
レクチャーをする諸井誠氏



初演で拍手を受ける諸井誠氏

諸井 誠氏 プロフィール

1930年、作曲家諸井三郎の次男として東京に生まれ、現東京芸術大学を卒業。
戦後日本における作曲活動のフロンティアを築き特に日本の伝統楽器を取り入れた手法は先駆者の業績を上げている。
クラシック音楽の大衆化の面でも大きな役割を果たすとともに、評論活動や著作も多く、エリザベート国際コンクールに入賞、尾高賞の受賞など作曲家としての目による音楽史へ(1994年から)、日本アルパベルク協会会長、文化庁の諮問委員会委員、京都音楽賞他選考、審査委員など歴任。